

エスペラント

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

2012年6月17日 (日) 09:46; Xqbot (会話 | 投稿記録) による版 (日時は個人設定で未設定ならUTC)

(差分) ←前の版 | 最新版 (差分) | 次の版→ (差分)

エスペラント (**Esperanto**) とは、ルドヴィコ・ザメンホフが考案した人工言語。

目次

- 1 概要
- 2 歴史
 - 2.1 言語の開発
 - 2.2 最初の世界大会まで
 - 2.3 言語の発展
 - 2.4 最初の世界大会以降
 - 2.5 年表
- 3 分類
- 4 使用状況
 - 4.1 公的地位
 - 4.2 派生言語
- 5 アルファベット
 - 5.1 代用表記
 - 5.1.1 H-方式
 - 5.1.2 X-方式
 - 5.1.2.1 エスペラント版ウィキペディア・ウィクショナリーの代用表記
 - 5.1.3 キャレット方式
 - 5.1.3.1 TeXでの代用表記
 - 5.2 Unicode
- 6 アクセント
- 7 単語
- 8 文法
 - 8.1 概要
 - 8.2 品詞
 - 8.3 品詞語尾と語根
 - 8.4 派生語と接辞
 - 8.5 冠詞
 - 8.6 人称代名詞
 - 8.7 動詞
 - 8.8 分詞
 - 8.9 法
 - 8.9.1 直説法
 - 8.9.2 不定法
 - 8.9.2.1 不定詞の名詞的用

エスペラント

Esperanto



シンボル

発音	IPA: /espe'rantɔ/
創案者	ラザロ・ルドヴィコ・ザメンホフ
創案時期	1887年
母語話者数	母語話者200 - 2000人、第二言語話者100万人 - 200万人
話者数の順位	100位以内になし
目的による分類	人工言語
参考言語による分類	文法：ロマンス諸語 語彙：ロマンス諸語およびゲルマン語派 音韻：スラヴ語派
公用語	無し 幾つかの国際機関で公用語として使われている
統制機関	アカデミーオ・デ・エスペラント
言語コード	
ISO 639-1	eo
ISO 639-2	epo
ISO 639-3	epo
SIL	ESP

当然視してしまう姿勢への対抗的姿勢が、多くの場合に、とって代わるべき国際補助語としてこのエスペラントを持ち出している。中国語では「世界語」とよぶ。

歴史

エスペラントは1880年代にラザロ・ルドヴィコ・ザメンホフによって創案された。最初の文法書・単語集は1887年に発表された。

言語の開発

最初、ザメンホフはラテン語の復権が言語問題の解決策になると考えていたが、実際にラテン語を学ぶと難しいことに気づいた。英語を学んだ際、名詞の文法上の性及び複雑な格変化並びに動詞の人称変化が不要であることに気づいた。言語を学習するにはたくさんの単語を覚えなければならないが、街を歩いているとき偶然、ロシア語で書かれた二つの看板を見て、解決策を思いついた。*швейцарская* (シュヴェイツァールスカヤ 門番所) と *кондитерская* (コンディテルスカヤ 菓子屋) という二つの看板には、共通して *-skaja* (スカヤ 場所) という接尾辞が使われていた。彼は一つ一つ別々に覚えなければならないと思われていた単語を、接辞を使って一つの単語から一連の単語群として作り出せるようにする方法を考えた。基本となる語彙は、多くの言語 (ただし、ヨーロッパの言語に限られる) で使われているものを採用した。

1878年、現在のエスペラントのプロトタイプといえる *Lingwe uniwersala* (リングヴェ ウニヴェルサーラ) を、ザメンホフはギムナジウムの同級生たちに教えた。その後6年間、まず各民族語の文学作品の翻訳と詩作に取りかかり、新しい言語の欠陥や運用上の扱いにくさを無くすことにした。ザメンホフは後の1895年にロシアのエスペランティスト、ニコライ・ボロフコに宛てた手紙に「私は6年間を言語を完璧にするために費やした。たとえそれが1878年の段階で既にできあがっていたとしても」と書いている。彼はもう既に自らの言語を公表できる準備ができていると考えていたが、ロシア政府の検閲がそれを許さなかった。これにより公表が遅れたが、その間、彼は旧約聖書やシェークスピアの作品などをエスペラントに翻訳し、言語の改良も重ねていった。1887年、ようやく出版された *Unua Libro* (最初の本) でエスペラントの基礎について紹介した。こうして今日話されているエスペラントが世に出された。

最初の世界大会まで

最初のうち、エスペラントの話者どうしの交流の手段としては、文通か雑誌

『*La Esperantisto*』(1889年から1895年まで発行) 程度しかなかった。1905年までに17のエスペラント関係の雑誌が発行された。活動は最初ロシアや東ヨーロッパに限られていたが、次第に西ヨーロッパやアメリカ、アジアに広がっていった。日本では1906年に二葉亭四迷が日本最初のエスペラントの教科書『世界語』を著した。

1904年小規模な国際会議が開かれ、それが1905年8月、フランスのブローニュ＝シュル＝メールで行われる最初の世界エスペラント大会の開催につながる。このときは33の国から688人が参加した。大会でザメンホフは、エスペラント運動の指導者としての地位を公式に放棄した。ザメンホフ自身がユダヤ人であったため、反ユダヤ主義による偏見が言語の発展を妨げるのを恐れたためである。彼はエスペラント運動の原理に基づいたブローニュ宣言を提案し、大会出席者たちはこれを採択した。



エスペラントの草案者、L.L. ザメンホフ



1887年にワルシャワで出版されたエスペラントについての最初の本“Unua Libro”

言語の発展

1905年にフランスのブローニュで開催された第1回世界エスペラント大会で、『エスペラントの基礎』の変更を制限する宣言が採択された。宣言は、言語の基礎をザメンホフが出版した『エスペラントの基礎』

(*Fundamento de Esperanto* フンダメント デ エスペラント) から変更してはならないとし、いかなる者もこれを変える権利を有しないとした。この宣言は使用者が適当と思うように新しい考えを発表しても良いとしている^[1]。

しかしながら実際には、現代のエスペラントの使い方は『エスペラントの基礎』で示された「お手本」と完全に一緒というわけではない。例えば「私はこれが好きです。」の一文をエスペラント文に翻訳するときを例に説明する。『エスペラントの基礎』に沿って訳せば"*Mi amas ĉi tiun.*" (ミ アーマス チ ティーウン) となるが、これは「私はこれを愛しています。」の意味となり、少し意味が強すぎてふさわしくないと感じるエスペランティストが多く、実際には"*Mi ŝatas ĉi tiun.*" (ミ シャータス チ ティーウン) で代用することが多いが、これは元来「私はこれを高く評価します。」という意味であり、元の意味からは少しずれている(ただし、現行の辞書では挿入詞"*ŝati*"を「好きだ」の意味で使うことを追認している)。また、"*Ĉi tiu plaĉas al mi.*" (チ ティーウ プラーチャス アル ミ) と訳すこともある。逐語訳すれば「これは私に気に入る」であり、完全に同じ意味ではないが、こちらの訳の方が「私はこれが好きです。」の意味に近い。

ほかの慣習的な変化としては、国名を表す接尾辞が *-uj-* から *-i-* が主流に変わったことがある(例: *Japanujo* → *Japanio*)^[2]。また、厳密に言えば、エスペラント化された単語のうち *-a* で終わる単語はすべて形容詞であるが、ヨーロッパ諸語での *Maria* のように *-a* で終わる名前が使われることがあり、これを慣習的にエスペラント化された名詞として認められる辞書もある^[3]。ただし、『エスペラントの基礎』に従うなら、エスペラント化された名詞は、すべて *Mario* のように *-o* で終わらなければならないはずであり、この立場をとる辞書もある^[4]。また *h* の発音がとりわけ難しいとされて *k* に置き換えられる^[5] など、語形変化も起こっている。

加えてエスペランティストたちは、新しく登場した事物や概念、外来語を表すために、さまざまな新語を取り入れた。例えば1934年発行の "*Plena Vortaro*" は7004項目(ほぼ語根) からなるが、2005年発行の "*La Nova Plena Ilustrita Vortaro*" は16780項目からなる^[6]。これらはそのまま使うのではなく、可能な限りエスペラントの造語法などに従った形で取り込まれている。例えば、コンピュータ (computer) は *komputilo* (コンプティロー) といった具合である(道具を意味する接尾辞 *-il-* を使っている)。これにより、テレビやウェブやWindowsやMacなど、ザメンホフの時代には存在しなかった事物も自由に表現できるようになっている。

「CD-ROMの中のbinというフォルダにあるボールペンのアイコンをダブルクリックするとウィンドウズにワープロのプログラムやファイル、フォントなどがインストールされます。このときインターネットに自動的にアクセスするので、通信を許可するようにファイアウォールを設定してください。」といった文章も、現代のエスペラントでは表現できるのである。

新語の導入はエスペランティストなら誰でも提案することができ、最終的には一種の「競争原理」を勝ち抜いて人口に膾炙するようになったものが受け入れられる。例えば「コンピュータ」に関して、*komputatoro*、*komputero* など様々な提案が行われたが、最終的にエスペランティストにとって最も簡潔と思われる *komputilo* が勝ち残ったのである^[7] (この際、動詞 *komputi* 「計数・計量する」に「計算機で計算(演算)する」という意味が付け加えられた)。エスペラントの言語としての統制機関としてアカデミーオ・デ・エスペラントが在るが、個々のエスペランティストをがちがちに縛り付けるようなことはしていない^[8]。

新語はどんなものでも受け入れられるとは限らない。例えば「安い」を意味する新語 *ĉipa* (チーパ・英語の *cheap* に由来) は、長たらしい *malmultekosta* (マルムルテコスタ: *mal/multe/kost/a* = 「(反対)・多く・費用・(形容詞)」) に代わるものとして造られたが、あまり使われていない。

最初の世界大会以降

1905年以降、世界エスペラント大会は二つの世界大戦の間を除き、毎年開催されている。

1920年代、国際連盟の作業言語にエスペラントを加えようという動きがあった。日本の新渡戸稲造をはじめ10人の各国代表者が賛同したが、フランスの代表者ガブリエル・アノトーの激しい反対にあい、実現しなかった。フランス語は英語に国際語の地位を脅かされつつあり、エスペラントを新たな脅威とみなしていたからである。

その後、アドルフ・ヒトラーとヨシフ・スターリンはエスペラントの人道主義性・博愛性に危険を感じ、エスペランティストたちを粛清した。ヒトラーは1925年の『我が闘争』第1部の中で「ユダヤ人は離散しているので各地の人々の言語を話しているが、もし各地の人々を隷属させたら、より簡単に彼らを支配するために世界語（たとえばエスペラント）を習わせるだろう」^[9]として嫌悪感を表明し、政権をとった後でエスペランティストを迫害した。

年表

- 1859年: エスペラントの創案者ラザロ・ルドヴィコ・ザメンホフがポーランドに生まれる。
- 1887年: 最初の文法書が出版される。
- 1905年: 第1回世界エスペラント大会がフランスのブローニュ＝シュル＝メールで行われ、『エスペラントの基礎』が出版される。
- 1906年: 日本で日本エスペラント協会が発足し、二葉亭四迷がエスペラント学習書を発行するなどして、本格的な普及運動が始まる。
- 1908年: 当時19歳のエスペランティスト、ヘクター・ホドラーが中心となって世界エスペラント協会 (UEA) が設立される。
- 1966年: パスポルタ・セルヴォ (エスペランティストの国際ホームステイシステム) が始まる。

分類

エスペラントは人工言語であるため、公式にはどの自然言語とも類縁関係にないとされている。どの国の言語でもないため言語による民族感情に左右されず、特定の民族に有利になったり不利になったりしないため、だれでも使用の恩恵を受けられると言われている。しかし実際には文法、語彙ともにヨーロッパの諸言語、とりわけロマンス語を基礎に成立しているため、既存の語族に分類した場合、エスペラントは印欧語族に分類されるとの見方がある。そのため、非ヨーロッパ言語の話者には習得や運用が難しい (英語等、他の自然言語よりはまし、という程度でしかない) という、日本を含む非ヨーロッパのエスペランティストからの指摘もある。

発音体系はスラブ語の影響を受けているが、語彙は主にロマンス語 (フランス語・スペイン語等: 約75%)、ゲルマン語 (ドイツ語・英語等: 約20%) から採用している。ザメンホフが定義していない文法上の語用論や相については、初期の使用者の母語、すなわちロシア語・ポーランド語・ドイツ語・フランス語等の影響を受けている。特にフランスやハンガリーなどのエスペランティスト達の動きは無視できない。

ラテン語及びギリシア語等と同様、語順は比較的的自由であるが、慣習上、英語と同じようなSVO文型が圧倒的に多く、形容詞が名詞の前に立つことが多い。主格及び対格以外の格は、前置詞によって示される。印欧語特有の屈折語的性格と、語幹に接辞が附属していく膠着語的性格とを併せ持つ (特に膠着語的性格が際だっている) 言語であり、これはドイツ語などとも共通する点が多い (ちなみに英語は孤立語と屈折語の性格を併せ持っている)。

使用状況

エスペラントの使用者人数調査は、ワシントン大学の心理学教授シドニー・S・カルバートによって行われた。彼自身エスペラント大会に出席したことがあるエスペランティストであった。カルバートは160万人の人々がエスペラントを "Foreign Service Level 3" の能力で使いこなすことができると結論づけた。これは「専門的で堪能な」 (エスペラントで挨拶と簡単な表現ができることにとどまらず、実際に意思伝達ができ

る能力を有する) 人々に限定した数字である。この調査はエスペラント使用者を探し出すものではなく、多くの言語の世界的な調査の一部が元になっている。この数字は *Almanac World Book of Facts* と *Ethnologue* にも登場した。この数字は世界人口の大体 0.03 % に相当する。この数字では、ザメンホフが目指した普遍語には程遠い。*Ethnologue* はこのほかエスペラントを母語として育った、エスペラント母語話者が 200 から 2000 人いると言及した。



エスペラント利用者の分布
(Pasporta Servoによる宿泊施設
の位置)

カルバートは研究の結果だけ公表し、調査方法の詳しい点については明らかにしなかった。それゆえ、彼の研究の正確性は疑われている。ドイツのエスペランティスト、ズーコ・ファン・ダイクはこの数字を疑い、調査して『*神話なしのエスペラント (Esperanto sen mitoj)*』の中でその結果を発表した。「もし、100 万人のエスペラント話者が世界中に平均的に散らばっているとしたら、ケルンには 182 人いることになる」と予想した。ズィコゼックは 30 人しか流暢に話す人を見つけることができなかった。そして、この数字は世界の平均的な地方よりも高い方である、と言及した。彼はまた、「さまざまなエスペラントの組織の登録者数が 20,000 人おり、組織に登録されていないエスペランティストもたくさんいるだろうが、登録されている人の 50 倍もいるとは考えにくい」ということも言及した。他のエスペランティストたちも組織の登録者数と非登録者数がそんな比率で存在しないと考えている。カルバート教授のデータ、あるいはその他のデータもエスペランティストの人口を確実にはじき出すことは不可能である。

公的地位

エスペラントを公用語としている国は存在しない。20世紀初頭には中立地帯のモレネの公用語をエスペラントにする案が提案されたこともある。1968年にアドリア海上に石油プラットフォームに似た人工島をつかって独立宣言した自称国家であるローズ島共和国はエスペラントを公用語として採用したが、翌年にはイタリア海軍により爆破され消滅した。非政府組織、特にエスペラント関係団体などでは作業語として使われている。最も大きいエスペラントの組織、世界エスペラント協会 (UEA) は、NGOの一つとして国連とユネスコと協力関係にある。

UEAにおいて日本を代表する国別団体として、1919年に設立され、1926年に財団法人化され日本エスペラント学会が活動している。2009年12月末現在の会員数は1236人である。^[10]

派生言語

『エスペラントの基礎』はエスペラントを改造することを認めていない。しかしながら、年月がたつに従って、たくさんの団体・個人がエスペラントの改善を試み、その改造案を提示した。改善の対象となったのは字上符つき文字や女性形語尾 *-in-*、形容詞の格の一致などが多い(最後についてはザメンホフ自身も失敗であったと回顧している)。

改造案のほとんどは失敗が計画段階にとどまったが、唯一1907年にパリで行われた国際語選定代表者会で発表されたルイ・ド・ボーフロンによるイド改造案 (イド語) はある程度の支持者を得た。イドの主な改造はアルファベット (特に、字上符つき文字の排除) と幾つかの文法事項の変更であった。初期には比較的多くの人がイド改造案に賛同したが、この追加改造に次ぐ改造を呼び次第に分裂していった。今なお、250 から 5,000 人がイド語を使用しているとされるが、使用人口・影響力ともエスペラントとは比較にならない、これもまた「成功した」とは言い難い。

Fasileなどの新しい国際言語案もエスペラントを意識したものと言えるが、これもエスペラントを脅かすレベルまでには全く到達していない。

アルファベット

詳細は「エスペラントアルファベット」を参照

エスペラントのアルファベットはalfabeto (アルファベート) と呼ばれ、ラテン文字アルファベットにサーカムフレックス付きアルファベット **ĉ, ĝ, ĥ, ĵ, ŝ** とブレーヴェ付きアルファベット **ŭ** を加えた28文字を使用する (ただし、**ĥ** は **k** に置き換えられる傾向にあり、今日ではあまり見られない)。**q, w, x** 及び **y** は人名や科学記号など特殊な場合を除いて使用しない。各字母の名称は、母音字はその発音、子音字はその子音に母音 **o** を付けたものである (**a** アー、**b** ボー、**c** ツォー、**ĉ** チョーなど)。ちなみに **q, w, x** 及び **y** の名称は、それぞれ **q** クーオ、**w** ドゥオブラ・ヴォー (又はヂェルマーナ・ヴォー若しくはヴァーヴォ)、**x** イクソ、及び **y** イプスィローノ (又はイ・グレーカ) である。

代用表記

英文タイプライターなどでダイアクリティカルマークが付いた文字が表示できないとき、別の文字に置き換えてダイアクリティカルマーク付き文字を表現することを代用表記 (Surogata skribosistemo) と呼ぶ。h, x あるいは **^** などを文字の後ろ (又は前) に加え、ダイアクリティカルマーク付き文字であることを示す方式が主流だが、**ŭ** を **w** に置き換えるなど、エスペラントで使用しない文字に置き換える方法もある。何を後置するかによって、H-方式、X-方式のように呼ぶ。現在はUnicodeが普及したことにより、コンピュータの上では代用表記の使用は少なくなってきた。

H-方式

H-方式 (H-sistemo) またはザメンホフ方式 (Zamenhofa sistemo) は **h** を後置する方法で、唯一『エスペラントの基礎』で定義されている方法である。そのため「第2の正書法」とも呼ばれる。ただし **u** には後置しない。*flughaveno* (空港) のように代用表記に見える綴りがあると紛らわしいという欠点がある。エスペラントですでに使われている文字を転用するこの方式が採用されたのは、活字の数を増やしたくなかったためと言われている。

X-方式

X-方式 (X-sistemo) は **x** を後置する方法である。**x** はエスペラントでは使用しないため (エスペラント文に限れば) 置き換えるのが簡単であるという利点から、インターネットなどで広く使われている。ただし、フランス語の人名や名詞・形容詞 (特に複数形) には **-(e)aux**, **-eux** または **-oux** で終わるものがあるため、このような置き換えたくない文字の処理をどうするか問題になる。この問題を避けるため、**ŭ** を **ux** と書かずに **vx** と書く方法があるが、あまり広まっていない。

エスペラント版ウィキペディア・ウィクシヨナリーの代用表記

エスペラント版のウィキペディア、ウィクシヨナリーには、X-方式が使われていて、**cx** を **ĉ**、**gx** を **ĝ** と、**x** が付いた文字を自動的に字上符付きのものに置きかえる機能がついている。置き換えたくないとき、編集ページで **uxx** と入力すれば本文中で **ux** と表示される。置き換え処理は何度も改良されている。以前のバージョンでは[[**eauxx**]] (フランス語で「水」の複数形) と入力すると **eaux** のように表示はされるがリンク先は **"eaŭ"** となり、**"eaux"** という記事名で新しい記事を作ることができない不具合があったが、現在は解消されている。

キャレット方式

^-方式 (**^-sistemo**) は、**c^**、**g^** のように **^** (キャレット) を後置する方法である。**ŭ** については **u^**、**u^** の双方が見られる。H-方式などに比べて見栄えが良くないという欠点はあるが、キャレットがサーカムフレックスと同じ形であることから、初心者やエスペラントを知らない人でも容易に理解できる利点があり、こうした人々を読者に想定した文書などでよく使われる。

TeXでの代用表記

TeXでエスペラントを記述する場合にはH-方式もX-方式も使いにくいと言うことで、babelパッケージでは独自の方式を使うことになっている。この方式では字上符が付くべき文字の直前に ^ (サーカムフレックス) を置いて表す。この方式とX-方式はsedやawkなどの簡単なスクリプトで相互に変換することができる。

Unicode

かつてコンピュータがダイアクリティカルマーク付き文字を扱えなかったころは、エスペラントを何らかの代用表記で表すしかなかったが、現在はISO 8859-3 (いわゆるLatin-3) やUnicodeの普及により、コンピュータ上でもエスペラントのダイアクリティカルマーク付き文字を表示できるようになった。以下はHTMLなどで表示する場合の10進(16進)の数値文字参照記述である。

- Ĉ: Ĉ (Ĉ)
- ĉ: ĉ (ĉ)
- Ĝ: Ĝ (Ĝ)
- ĝ: ĝ (ĝ)
- Ĥ: Ĥ (Ĥ)
- ĥ: ĥ (ĥ)
- Ĵ: Ĵ (Ĵ)
- ĵ: ĵ (ĵ)
- Ŝ: Ŝ (Ŝ)
- ŝ: ŝ (ŝ)
- Ŭ: Ŭ (Ŭ)
- ŭ: ŭ (ŭ)

アクセント

「アクセントは常に最後から2番目の音節にある。」 (エスペラントの基礎 文法第10条)

エスペラントのアクセント (強勢) は*akcento* (アクツェント) と呼ばれ、日本語のような高低アクセントではなく、英語などと同じ強弱アクセントである。英語では同音でアクセント位置によって意味が異なってしまふ*desert* (砂漠) と*dessert* (デザート) を、エスペラントでは*dezerto*と*deserto*のように音を変えて取り入れている。この例は、フランス語の音 (それぞれ /dezEr/, /desEr/) から、またはその中間形を、取り入れたとも考えられる。アクセントの位置によって単語を区別する必要がないため、人によって高低アクセントになってしまったり、あまり注意が払われない場合もある。

綺麗に発音するためイタリア語などと同じように、アクセントのある母音を心持ち長めに発音するのが推奨されている (母音の長短そのものは意味の違いをもたらさない)。ただし、最後と最後から2番目の母音の間に子音が2個以上あるときはアクセントのある母音を短く発音し、子音が無いか1個だけのときに長く発音する。これに加えて、最後と最後から2番目の母音の間の複子音の第二要素が l, r のものと kv, dz である場合はアクセントを長く発音するというものもある。

また、特に詩などで、語末の母音を省略することがある (母音が省略されていることを ' アポストローフォで示す) が、その場合でもアクセント位置は変わらない。

単語

最初のエスペラントの語彙は、1887年にザメンホフが出版した*Lingvo internacia*の中で定義されている。初期には約900語が定義された。しかしながら、言語の使用者は必要に応じて多くの言語で国際的に最も使われている単語を取り入れて使うことが、文法規則 (エスペラントの基礎 文法第15条) によって許されている。1894年、ザメンホフは最初の5カ国語 (仏・英・独・露・ポーランド) のエスペラント辞書*Universala Vortaro*を発表した。そのときから特に西ヨーロッパの言語から多くの外来語がエスペラントに取り入れら

れた。より多数の利用者が取り入れた単語が人気を得て広まっていった。近年では、新しい外来語や造語のほとんどは技術用語または科学的な用語である。日常的な用語は既にある単語から合成して造られるか（例:komputilo）、あるいは既存の単語に新しい意味を追加して使う傾向にある（例:muso: 鼠、はコンピュータの入力装置の意味も持つようになった）。

新しい外来語を取り入れるか、それとも既存の単語から新しい単語を合成したり、既存の単語に新しい意味を加えたりして対応する方が良いのか、この種の議論には限りが無い。エスペラントを学ぶ人は基本単語に加えて、単語が結合する規則なども覚えなければならない（例:eldonejoはそのまま訳すと”出す所”で、それは「出版社」や「発行所」を意味する）。

すべてのエスペランティストが新しい単語を創り出す権利を持っているので、造語法を学ぶことは非常に重要である。新しい単語はエスペラントのコミュニティで使われていく中で次第に淘汰され、ほとんどの場合、最終的に一つの形に落ち着くことになる。例えば「コンピュータ」に相当する語は最初komputmaŝino、komputilo、komputatoroなどいろいろな形が使われたが、最終的にkomputiloに落ち着いた。しかし「データ」を表すdatenoとdatumoなど、複数の形が併存している例も見られる。

幾つかの単語はそのままでの意味の他に慣習的な意味を持つものがある。例えば、ワニを意味する”krokodilo”から派生した”krokodili”と言う動詞は、「エスペラントを話さなければならないところで自国語を話す」という意味がある。

最大のエスペラント辞典は*La Nova Plena Ilustrita Vortaro de Esperanto* (SAT, 2002, ISBN 2-9502432-5-8) であり、16,780個の語根と46,890個の複合語句が記載されている。2005年、最新の改訂版が出版された (ISBN 2-9502432-8-2)。これは英語などの辞書と比べると非常に少ないように思えるが、実際にはエスペラントの造語法に従って自由に複合語をつくることのできるため、実際に世界で使われている語彙は数十倍にのぼると考えられる。

文法

概要

エスペラントは印欧語を基にしているため屈折語的性格を持っていると言われることがあるが、文法上の性を持たず、語幹に一定の接辞（接頭辞・接尾辞）や文法語尾を付け加えて語の意味を限定したり拡張したりするなど、膠着語的性格を遥かに色濃く有しており、実際にはほとんど膠着語であると言って差し支えない。名詞及び形容詞は主格及び対格の二つの格を持つ。名詞及び形容詞には更に単数 (singularo) 及び複数 (pluralo) の区別があり、形容詞はそれが関わる名詞に合わせて格と数の変化をする。対格語尾には、種々の目標を表したり任意で適切な前置詞の代わりにしたりする働きもある。対格があるので、ロシア語、ギリシア語、ラテン語又は日本語等のように語順は比較的的自由である。なお、動詞は人称変化しない。

品詞

次の品詞区分が『エスペラント日本語辞典』（2006, ISBN4-88887-044-6）で行われている：名詞、代名詞、形容詞、副詞、動詞、数詞、前置詞、等位接続詞、従属接続詞、間投詞、元語。また、疑問、指示などに使われる語で、分類からは代名詞、副詞などの広範囲にまたがる45語については総称して相関詞ということがある。なお、代名詞を人称代名詞、疑問代名詞、指示代名詞などのように分け、動詞を自動詞、他動詞と分けるように、さらに細分化して扱うことがある。

品詞語尾と語根

エスペラントでは全ての名詞、形容詞、動詞と、形容詞等からの派生副詞は、語根 (radiko) とその単語の品詞をあらわす品詞語尾 (finajo) の組み合わせによって構成される。例えば forto (力) はfort-という語幹と名詞を表す語尾-oから成り立っている。品詞語尾によって単語の品詞がわかり、また品詞語尾を換える

ことにより品詞を変化させることが出来る。例えば *forta* とすると「強い」という意味になる。

品詞語尾 *-o* は名詞 (*substantivo*)、*-a* は形容詞 (*adjektivo*)、*-e* は副詞 (*adverbo*) をそれぞれ表す。名詞あるいは形容詞の品詞語尾の後ろに *-j* を加えると複数形になる。対格にするには *-n* を名詞あるいは形容詞語尾の後ろにつけ、複数形の場合は複数形語尾の後ろにつける。動詞には法や時制を表す6種類の語尾がある。

形容詞は名詞の数と格に一致させる。すなわち修飾する名詞が複数形の場合は形容詞も複数形にし、対格の場合は形容詞も対格にする。*bona* (良い)、*tago* (日) を例に一致の変化を示す。

	主格	対格
単数	<i>bona tago</i>	<i>bonan tagon</i>
複数	<i>bona j tago j</i>	<i>bona jn tago jn</i>

形容詞の数と格の一致によって語順がかなり自由となり、また、形容詞 - 名詞、名詞 - 形容詞のどちらも可能であることによって標準的なSVO型の他、SOV型やVSO型などの文も作ることが出来る。ただし初心者はこの「一致」を忘れることが多い(ただし、忘れても会話が成立しなくなるほどの問題になることはないだけの冗長性をエスペラントは備えている)。

- **La knabino feliĉan knabon kisis.** (ラ・クナビーノ・フェリーチャン・クナーボン・キースイス) = 「その少女は幸せな少年にキスした」
- **La knabino feliĉa knabon kisis.** (ラ・クナビーノ・フェリーチャ・クナーボン・キースイス) = 「その幸せな少女は少年にキスした」

合計すると二個以上になる複数個の単数形の名詞を修飾する形容詞は複数形にする。

- **ruĝaj domo kaj aŭto.** (ルーヂャイ・ドーモ・カイ・アウト) = 「赤い[家と車]」
 - この例では家も車も赤いことになる(家も車も単数だが修飾する「赤い」が複数なので、両者にかかっていることがわかる。意味としては **ruĝa domo kaj ruĝa aŭto.** (ルーヂャ・ドーモ・カイ・ルーヂャ・アウト) = 「赤い家と赤い車」と同じ)。
- **ruĝa domo kaj aŭto.** (ルーヂャ・ドーモ・カイ・アウト) = 「[赤い家]と車」
 - 上の例に対してこちらは、家は赤いが車の色は不明である(修飾する「赤い」は単数なので、単数の「家」のみにかかることが明らか)。

叙事的な形容詞は対格としない。

- **Mi farbis la pordon ruĝan.** (ミ・ファルビス・ラ・ポルドン・ルーヂャン) = 「私は赤色のドアを塗った(ドアは始めから赤色)」
- **Mi farbis la pordon ruĝa.** (ミ・ファルビス・ラ・ポルドン・ルーヂャ) = 「私はドアを赤色に塗った(塗った結果として赤色になった)」

派生語と接辞

エスペラントでは語根の数を絞りと、その代わり多くの語彙を派生語であらわす。上述の品詞別の単語も派生である。また、接頭辞、接尾辞(あわせて接辞という)を有効利用する。例えば、語根 *long* は、

- 品詞語尾を付けて *longa* (ロンガ) = 長い、*longo* (ロンゴ) = 長さ、となる。
- 「反対」の意味の接頭辞 *mal* をつけて、*mallong* という語幹(*radikalo*)を構成し、これにより、*mallonga* (マルロンガ) = 短い、*mallongo* (マルロンゴ) = 短さ、となる。
- 「他動詞」の意味の接尾辞 *ig* をつけて、*longig* という語根を構成し、これにより、*longigi* (ロンギーギ) = 長くする、*longigo* (ロンギーゴ) = 長くすること、となる。
- 接頭辞と接尾辞を両方用いて、*mallongig* という語幹を構成し、これにより、*mallongigi* (マルロン

ギーギ) =短くする、mallongigo (マルロンギーゴ) =短くすること、などもできる。

冠詞

「不定冠詞は無い。全ての性、数、格に関係ない定冠詞*la*がある。」 (エスペラントの基礎 文法第1条)

人称代名詞

※()内は同義の英語

	単数	複数
1人称	mi (ミ) - 私 (I)	ni (ニ) - 私たち (we)
2人称	vi (ヴィ) - あなた/あなたがた (you)	
3人称	li (リ) - 彼 (he)	ili (イリ) - 彼ら/彼女たち/それら (they)
	ŝi (シ) - 彼女 (she)	
	ĝi (ヂ) - それ (it)	
	oni (オニ) - ひと/人々 (one, people; 仏語 on)	
再帰	si (スイ) - 自身 (self, own; 独語 sich)	

対格にするには-nをつける。「私を」は*min*となる。所有格 (所有形容詞、属格) には形容詞語尾-aをつける。「私の」は*mia*となる。所有形容詞は形容詞の一種なので、普通の形容詞と同じように複数語尾や対格語尾の変化があり、*miajn librojn* 「私の本 (複数) を」のように、名詞の数と格に一致させる必要がある。

動詞

動詞の「不定形」は「不定詞」ともいう。不定形以外の現在形から命令形までを「定形」又は「定重態」と呼ぶ。現在形から未来形までは「法」である。また、仮定形は「假定法」と、命令形は「意志法」と呼ばれる。

動詞 (*verbo*) に関しては、平叙文での動詞の位置は原則として文の要素のうち主語の後ろに置かれることが多いが、実際にはかなり自由である。エスペラントには助動詞 (*helpverbo*) と明確に呼ばれる品詞が無い。povi、devi及びvoli等は、下に示すように西欧語等での助動詞と同じような意味・用法を持っているが、他の動詞と活用上区別されない。同様に、存在動詞にも活用上の区別がない。英語などとは異なり、自動詞と他動詞の区別は厳格である。英語やフランス語などにあるような「時制の一致」はない。不規則動詞は全く存在せず、世界一不規則動詞が少ない言語として、ギネスブックに登録されている。動詞は人称変化しない。例として*kanti* (歌う) を使って変化を示す。

不定形	-i (kanti)
現在形	-as (kantas)
過去形	-is (kantis)
未来形	-os (kantos)
假定形	-us (kantus)
命令形	-u (kantu)

分詞

分詞 (Participo) は態 (能動・受動) と相 (継続・完了・将然) によって6種類存在する。これらの分詞と、複合時制を作る助動詞のように働く動詞estiの3時制 (現在形・過去形・未来形) との組合せによって、エスペラントでは細かい時制表現が可能である。分詞とestiを組み合わせた文では、能動態・受動態それぞれ9種類ずつ、時制表現のバリエーションがある。必要なら現在完了進行形のような複合時制を作ることもでき、バリエーションは更に増える。以下にバリエーションを列挙する。

- 現在継続 (進行) 形
- 現在完了形
- 現在将然形
- 過去継続 (進行) 形
- 過去完了形
- 過去将然形
- 未来継続 (進行) 形
- 未来完了形
- 未来将然形

9種類もバリエーションが存在するにもかかわらず、分詞を使った複合時制はエスペラントでは好まれない。英語なら現在進行形や現在完了形など複合時制を義務的に用いる表現でも、エスペラントでは相を表す副詞を使用して単純時制で表現する場合が多い。受動態の分詞形容詞を使えば受動文を表現できるが、エスペラントでは受動文を避けて能動文で表現する傾向がある。

分詞形容詞に分詞を作る接尾辞を付けることによって作る。下の表は分詞を作る接尾辞の表である。例として、形容詞の品詞語尾-aを付けた分詞形容詞を挙げてある。

分詞	能動態	受動態
継続相	-ant- ~している (kantanta)	-at- ~されている (kantata)
完了相	-int- ~した (kantinta)	-it- ~された (kantita)
将然相	-ont- ~しようとする (kantonta)	-ot- ~されようとする (kantota)

分詞形容詞は形容詞の一種なので、格・数の変化をし、分詞形容詞が修飾している名詞に一致させる。形容詞の品詞語尾-aを副詞の品詞語尾の-elに付け替えれば分詞副詞、名詞の品詞語尾の-oに付け替えれば分詞名詞になる。

分詞副詞 (例えば kantante 「歌いながら」) はイタリア語のジェルンディオ、フランス語のジェロンディフ等のようなもので、文の主動詞に対する同時性等を表したり、分詞構文を作ったりする。分詞副詞は格・数の変化をしない。

他動詞から作られた分詞形容詞と分詞副詞は、対格目的語を取ることができる。

分詞名詞 (例えば kantanto 「歌っている人」) は分詞形容詞や分詞副詞よりも動詞的性格の薄れた完全な名詞である。たとえ他動詞から作られた分詞名詞であっても対格目的語を取ることができない。たいていの場合、その動作をする人物を表す。分詞名詞は格・数の変化をする。

法

エスペラントには4つの法が存在する。

直説法

直説法 (*deklara modo*, *reala modo*) の時制には現在、過去及び未来があり、それぞれの動詞の語尾は -as, -is 及び -os である。現実 (のことして話し手が表現しようとする) 動作及び状態を表現する。継続中の動作は分詞形容詞を使った複合時制を使う方法もあるが、単純時制を使う方が一般的である。

- **Mi estas studento.** (ミ・エスタス・ストゥデント) = 「私は学生です」
- **Li ĵus finis la laboron.** (リ・ジュス・フィーニス・ラ・ラボーロン) = 「彼はたった今仕事を終わりました」

ドイツ語などのように、近い過去や近い未来、確定した未来を現在形で言うてしまうことはない。過去はあくまでも過去、未来はあくまでも未来である。確定した未来か未確定の未来かは、エスペラントでは区別されない。

不定法

不定法 (不定詞・不定形ともいう。*neŭtra modo, infinitivo*) の品詞語尾は *-i* であり、辞書に載っている形である。動詞句をつくることができるが、定動詞とは異なり、主文をつくることはできない。

エスペラントの不定詞 (不定形) には時制がない。ちなみにイド語の不定詞には現在、過去、未来の区別がある。

不定詞の名詞的用法

不定詞の名詞的用法 (*infinitivo kiel subjekto* 主語としての不定詞) は不定詞を名詞のように扱うことである。主語、目的語、補語の役割を果たす。目的語として用いられた場合でも、対格語尾 *-n* は付かない。名詞を修飾するのは¹ 形容詞であるが、動詞を修飾するのはあくまで副詞である。これは主語たる不定詞の述語として用いられるのもまた副詞であるということの意味する。

- **Paroli estas facile, fari estas malfacile.** (パローリ・エスタス・ファツィーレ、ファーリ・エスタス・マルファツィーレ) = 「言うは易く、行うは難し」

複合動詞

動詞 *devi, deziri, rajti, povi* などの後に動詞の不定詞を置くことで、複合動詞 (*kompleksa verbo*) のようにすることができる。英語での助動詞と不定詞との関係とよく似ている。ただし、*devi, deziri, rajti, povi* などは、いわゆる「助動詞」ではない。エスペラントには「助動詞」という品詞は存在しない。

- **Mi povas paroli vian lingvon.** (ミ・ポーヴァス・パローリ・ヴィーアン・リングヴオン) = 「私はあなたの言葉を話すことができます」
- **Vi volos reveni.** (ヴィ・ヴォーロス・レヴェーニ) = 「あなたは帰りたいと思うだろう」
- **Li devis maldungi ilin.** (リ・デーヴィス・マルドゥンギ・イーリン) = 「彼は彼らを解雇しなければならなかった」

仮定法

仮定法 (*kondiĉa modo, imaga modo*) の語尾は *-us* である。

- 事実とは逆の仮定
 - **Se mi estus birdo, mi povus flugi en la ĉielon.** (セ・ミ・エストゥス・ビールド、ミ・ポーヴス・フルーギ・エン・ラ・チエーロン) = 「もし私が鳥ならば、空に向かって飛んで行けるのだが」

単純な仮定法では時制はないが、厳格に現在、過去、未来の時制を表したい場合は複合時制を使う方法がある。

命令法 (意志法)

命令法 (*ordona modo*) の動詞の語尾は-uである。命令だけでなく、依頼、要求または禁止など主語に対する話者のそうあって欲しいという「意志」を表現するため、意志法 (*vola modo*) と呼ばれる。命令文で主語が*vi*のとき、特に強調する場合を除いて主語*vi*は省略される。

- Iru ! (イール!) = 「行け!」 (主語*vi*は省略)
- Vi iru ! (ヴィ・イール!) = 「君が行け!」 (省略せず、*vi*を強調。他の誰でもなく「君が」行け)
- Li iru. (リ・イール) = 「彼に行かせろ」 (彼が行くべきだという話者の意志・願望)
- Mi iru. (ミ・イール) = 「私が行きます」 (私こそが行くべきだという話者 (すなわち私) の意志)
- Ni iru ! (ニ・イール!) = 「行こう!」 (私たちが行くんだという話者 (すなわち*ni*の中の一人としての私) の意志。英語の*Let's go.* に相当)
- Mi petis, ke li savu min. (ミ・ペーティス、ケ・リ・サーヴ・ミン) = 「私は彼に助けてと頼んだ」 (彼に助けて欲しいという主文の主語 (すなわち私) の意志)
- Ĉu ni iru al la kinejo ? (チュ・ニ・イール・アル・ラ・キネーヨ?) = 「映画に行きませんか?」 (私たちが行くべきかどうか、聞き手の意志を尋ねる体裁で催している)

コピュラ

動詞*esti* は、ラテン語の*sum, esse, fui*、フランス語の *être*、イタリア語の *essere*、英語の *be*などに相当するものである。日本語では「ある」と訳されることもある。非常に重要な動詞で存在を表現したり、コピュラ文の他、分詞形容詞を伴って複合時制の文を作ることが出来る。for-est-i, est-ont-aのように*esti* 自体に接辞を付ける事ができる。コピュラは2つの名詞句をつなぐ。

表現

あいさつ

- Saluton. (サルートン) = 「やあ」
- Tre agrable. (トレ・アグラーブレ) = 「はじめまして」
- Bonan matenon. (ボーナン・マテーノン) = 「おはよう」
- Bonan tagon. (ボーナン・ターゴン) = 「こんにちは」
- Bonan vesperon. (ボーナン・ヴェスペロン) = 「こんばんは」
- Dankon. (ダンコン) = 「ありがとう」
- Ĝis revido. (ヂス・レヴィード) = 「さようなら」 / Ĝis. (ヂス) = 「またね」

文

- Mi estas tre ĝoja konatigi kun vi. (ミ・エスタス・トレ・ヂョーヤ・コナティーヂ・クン・ヴィ) = 「あなたと知り合いになれてとてもうれしいです」
- Mia nomo estas ~. (ミーア・ノーモ・エスタス・〜) = 「私の名前は〜です」
- Mi estas japano. (ミ・エスタス・ヤパーノ) = 「私は日本人です」
- Kiel vi fartas ? (キーエル・ヴィ・ファルトス?) = 「お元気ですか?」

記数

- 1 - unu (ウヌ)
- 2 - du (ドゥ)
- 3 - tri (トリ)
- 4 - kvar (クヴァール)
- 5 - kvin (クヴィン)
- 6 - ses (セス)
- 7 - sep (セブ)
- 8 - ok (オク)
- 9 - naŭ (ナウ)

- 10 - dek (デク)
- 100 - cent (ツェント)
- 1000 - mil (ミル)

日本語由来のエスペラント単語

参考のため語種を付記し、漢語、外来語、和語の別を示す。付記されていないものは和語である。

- aikido アイキード (合気道、和製漢語)
- animeo アニメーオ (アニメ、ラテン語animaからできた英語animationに由来) 日本のアニメ、日本式の画風のことをいう。国を限定しないなら二重語のanimacio
- bonsajo ボンサーヨ (盆栽、和製漢語)
- cunamo ツナーモ (津波) 学術用語としての「気象以外の要因による波」だけでなく、単なる大波 (ondego) として使われたり、「押し寄せるもの」の例えに使う場合もある。
- ĉanojo チャノーヨ (茶の湯 → 茶道、前半部ĉaは漢語) Japana teceremonioと言う方が多い。
- ĉirimenon チリメーノ (縮緬、後半部menは漢語)
- eno エーノ (円、漢語)
- goo ゴーオ (碁、漢語)
- hajko ハイコ (俳句、和製漢語) - 派生語としてhajkaro ハイカーロ (句集、俳句集) などがあ
る。
- harakiro ハラキーロ (腹切り → 切腹)
- haŝioj ハシーオイ (箸) - 日本以外の東アジア圏で使われる箸を総称して合成語
manĝobastonetoj マンヂョバストネートイ (「食事」+「小さな棒」の複数形) が使われる。
- hibakŝo ヒバクショ (被爆者、和製漢語)
- ĵudo ジュード (柔道、和製漢語) - 派生語としてĵudejo ジュデーヨ (柔道場) などがある。
- kamikazo カミカーゾ (神風) 神風特別攻撃隊の略称「神風」が転じて「自爆テロ」も指す。
- kapao カパーオ (河童)
- karaokeo カラオケーオ (カラオケ、後半部はギリシャ語orkhestraに由来する英語orchestraか
ら)
- karateo カラテーオ (空手、「唐手」から。)
- katano カターノ (刀 → 日本刀)
- kimono キモーノ (着物)
- mangao マンガーオ (漫画、和製漢語) 日本風の漫画 (Japana bildliteraturo) に限定して使用
する。日本のアニメを含む場合もある。国を限定しない漫画はbildliteraturoを使用する。アメリカ
風ならkomiksoがある。
- moĉio モチーオ (餅) - 「米製のケーキ」を意味する合成語rizkuko を用いることが多い
- noo ノーオ (能、和製漢語)
- origamio オリガミーオ (折り紙)
- sakeo サケーオ (酒 → 日本酒)
- samurajo サムラーヨ (侍)
- suŝio スシーオ (寿司)
- ŝintoo シントーオ (神道、和製漢語)
- ŝogio ショギーオ (将棋、漢語) Japana ŝako 「日本チェス」という言い方もある。
- ŝoguno ショグーノ (将軍 → 征夷大將軍、漢語)
- tankao タンカーオ (短歌、和製漢語)
- tempuro テンブーロ (天ぷら、外来語)
- tofuo トフーオ (豆腐、漢語)
- udono/udonoj ウドーノ、ウドーノイ (うどん、漢語「饅頭」) 単数・複数のどちらも使われ
る。
- utao ウターオ (歌 → 和歌)
- zorioj ゴリーオイ (草履、和製漢語)

エスペラント由来のネーミング

ザメンホフ・エスペラント・オブジェクト

ザメンホフまたはエスペラントに由来するネーミングを持つ物体（モニュメント・場所・建物・乗り物など）は総称してザメンホフ・エスペラント・オブジェクト（Zamenhof/Esperanto-Objekto, ZEO）と呼ばれる。ZEOという単語はヒューゴ・レーリングエルが1997年に発表した *Monumente pri Esperanto*^[11] で使用した語である。彼はその著作で世界54の国にある1044のZEOを紹介した。世界エスペラント協会にはZEOを扱う委員がいる。

最初のZEOは1896年に進水したスペインの船舶「エスペラント」である。

著名なエスペラント由来のネーミング

エスペラント（曖昧さ回避）も参照。

企業・団体別

- アニミ - 横浜市に本社をおくNPO法人。animi とは「生命を吹き込む」という意味。^[12]
 - ラボリ - animi の就労支援プロジェクトの名前。laboriとは「働く」という意味。
- アルタ・モント・バッグ・ジャケットなどのアパレル・ブランド。本社が岐阜県の高山市にある為、エスペラントで「高い山」を意味する "Alta Monto" より命名された。
- イッセイ・ミヤケ
 - OVO - 三宅一生プロデュースの腕時計。エスペラントで「卵」を意味するovo(オーヴォ)に由来する。デザインは工業デザイナーの山中俊治である。
- VIVO (ヴィヴォ) - 1959年から1961年まで存在した写真家集団。生命を意味するvivo (ヴィーヴォ) に由来。
- エスペーロー大阪府箕面市にあるフェアトレードによる雑貨店。エスペラントの「希望」より。
- 大高酵素
 - ヘーラールーノ - (化粧品) Hela Luno (ヘーラールーノ)。エスペラントで「明るい月」を意味する。
- オーヴォ - 学生専用マンションの会社であるジェイ・エス・ビーの、100%出資の関連会社。エスペラントで「卵」の意と、ラテン語で「歓声をあげる」のダブルミーニング^[13]。
- JNN・JPN
 - アノンシスト賞 - JNN・JPN系列各局の優秀なアナウンサーに与えられる賞。「アナウンサー」を意味するanoncisto (アノンツイスト) に由来している。
- 東日本旅客鉄道
 - 釜石線全駅、および山田線の駅のうち、釜石線営業所管内に所属する釜石駅から浪板海岸駅までの各駅にエスペラントによる愛称が付けられている。
- JR東日本ホテルズ
 - ファミリーオ - 長期滞在型ホテルブランド。家族を意味するfamiliolに由来する。
 - フォルクローロ - 長期滞在型ホテルブランド。民話を意味するfolklorolに由来する。
- スクウェア・エニックス
 - ファイナルファンタジーXI (FF11) のオープニングムービーのBGM「FFXI Opening Theme」に、「Memoro de la Ŝtono (石の記憶)」というエスペラントのコーラスパートがある。作曲者である植松伸夫は、MMORPGであるFF11が世界中の人達が心を通い合わせるきっかけになれば、という意図でエスペラントを採用したとサウンドトラックのライナーノートで明かしている。エスペラントへの訳詞は、小西岳である。
- スワニー - 商品名にエスペラントを使用している^[14]。以下の旅行バッグの商品名等がエスペラント由来である。
 - 「マニエーロ」(maniero=様式)
 - 「アーモ」(amo=愛)

- 「コンフォルテ」 (komforte=心地よく)
 - 「スポーツ」 (sporto=スポーツ)
 - 「コメルツォ」 (komerco=商業)
 - 「フルーゴ」 (flugo=飛行、これは飛行機乗り用のバッグ)。
- SONORI (平仮名表記は「そのり」) - 人材開発コンサルティング会社 (有限会社)。エスペラントの Sonori (音が鳴り響く) より。
- ハルフィルムメーカー
 - 『ルーミス・エテルネ』 (Lumis Eterne) - ARIA The ORIGINATIONの挿入歌 (劇中歌)。エスペラントで『永遠に輝いた』を意味する。初めて全編の歌詞がエスペラントで書かれたアニメ挿入歌である。
- バンダイナムコゲームス
 - 『テイルズ オブ イノセンス』 (Tales of Innocence, 2007年12月6日に発売されたニンテンドーDS用のコンピュータRPGソフト) の登場人物「スパルダ・ベルフォルマ」 (Spada Belforma) の「ベルフォルマ」という姓。エスペラントで「形の良い」の意。
- 姫路セントラルパーク
 - ルーモ (Lumo) - (2011年6月20日 -) ホワイトライオンの雌。エスペラントで「光」の意。三つ子。他の2頭の「シャイン」 (雄) と「ルーチェ」 (雌) はそれぞれ英語とイタリア語で「光」の意味。
- 人形劇団プーク - 発足時の国際名称が La Pupa Klubo (エスペラントで「人形クラブ」の意) であり、それを略して PUK (プーク) としていた。1946年の劇団再建の時に「プーク」を正式名称とした。東京都渋谷区にあるプーク人形劇場の正面には「PUK PUPA TEATRO」 (PUK人形の劇場) の文字が表示されている^[15]。
- 人形劇団ポポロ - イタリア語の POPOLO も同じような意味であるが、この名称はエスペラント語の POPOLO より名付けられた。
- 有限会社フェスティバロ - 鹿児島県鹿屋市に本社を置く菓子の製造販売会社。「フェスティバロとは、祝祭という意味のエスペラント語です。」^[16]と説明がある。
- フェリカ建築&デザイン専門学校 - 同学校サイトに『「フェリカ (Felica)」はエスペラント語で、「幸福」という意味』^[17]という説明がある。しかし、エスペラントで幸福を意味するのは **feliĉo** (フェリーチョ) である。ちなみに Felica に似た綴りの feliĉa (フェリーチャ) は「幸福な」を意味する。
- ポプラ社
 - 月刊 Psiko (プシコ、より正しくは「プスィーコ」) - 2005年から2007年まで発行していた、日本初の心理学系雑誌。エスペラントで「精神」を意味する。
- 手作りパン工房ボングスタ - 「良い味の」「おいしい」を意味する bongusta (ボングスタ) に由来する。^[18]
- ボンズ
 - ラーゼフォンに登場する組織『TERRA(テラ)』の正式名称は、『TERENO EMPIREO RAPIDMOVA REAKCII ARMEO (最高天特区機動軍)』。劇中の地球連合の公用語がエスペラントであるため、名前にエスペラントの単語が使用されている。^[19] 使用されている単語の意味はそれぞれ、TERENO (テレーノ) = 領域・指定区域、EMPIREO (エンピレーオ) = 天国・最高天、RAPIDMOVA (ラピドモーヴァ) = 機敏な、REAKCII (リアクツィーイ) = 反応する、ARMEO (アルメーオ) = 軍。
- 本田技研工業
 - ホンダ・シビックフェリオ - シビックの4ドアセダンバージョン。サブネームの Ferio (フェリオ) は「休日」を意味する。
 - ホンダ・バモスホビオ - バモスの軽自動車のバージョン。サブネームの Hobio (ホビオ) は「趣味」を意味する。
- 日本テレビ系列
 - 中井正広のブラックバラエティ - バラエティ番組。サブタイトルの nigra varieteo (ニグラ・ヴァリエテーオ) は、「黒いバラエティ」を意味する。
- 丸の内オアゾ - 複合商業施設。「オアシス」を意味する oazo (オアーズ) に由来している。^[20]
- モバード (MOVADO) - スイスの時計メーカー。エスペラントの単語としては movo 「単独の動き」に継続の接尾辞 -ad- が加わり movado は「運動」を表す。なお、同社の英語公式サイト^[21]では "always in

motion”と説明され、同社の日本代理店のサイト^[22]では「たゆまぬ前進」と意識されている。

- ヤクルト本社
 - ヤクルト (Yakult) - 乳酸菌飲料。「ヨーグルト」を意味する jahurto (ヤフルト) に由来している^[23]。
- ワルシャワ交通局
 - Veturilo - レンタサイクル。エスペラントで乗り物を意味するVeturilo (ヴェトゥリーロ) に由来。ネット投票によるネーミング。^[24]

個人別

- 桑島法子
 - レアリーギ (Realigi) - 2000年に発表されたアニメソング、キャラクターソング集アルバムのタイトル。エスペラントで「叶える」「実現させる」の意。
- 宮沢賢治 - 作中の地名に、実在の地名（主に東北地方）をエスペラント風にしたものを用いていた。「イーハトーヴォ (岩手)」「モリーオ (盛岡)」「センダード (仙台)」など。また、宮沢賢治原作の劇場用アニメ映画「銀河鉄道の夜」では、そのシーン毎のタイトル、劇中に出てくる商店の看板、学校の先生による板書、印刷物、無線電信文、賛美歌等にエスペラントが用いられた。
- 安村美博 - ベロ細胞 (Vero cell)は、彼がアフリカミドリザルの腎臓からの分離・樹立に成功した細胞株であるが、名前の由来は、エスペラントで「緑の腎臓」を意味する verda rano を短くし、これにエスペラントの「真理」を意味する vero をかけたものである。
- ピーター・ガブリエル - 2000年発売のサウンドトラック・アルバム"OVO" (オーヴォ)。エスペラントで「卵」の意（但し、映画のサウンドトラック・アルバムではなく、ロンドンのミレニアム・ドームで行われたショーの為のもの）。
- fumiko - 日本人バイオリニスト。2003年発表のアルバム " f " の5曲目に、チェコ民謡を題材とした「テル・グローボ」という曲がある（エスペラントで「地球」の意。但し、実際には中黒は要らず、通常は「テルグローボ」と表記〔 " Terglobo " で一語の為〕。発売はユニバーサルミュージック）。

エスペラントに関する作品

作品中にエスペラントやエスペランティストが明示的に出てくるものを示す。なお、エスペラントで物事を名づけている場合は「著名なエスペラント由来のネーミング」のセクションも参照のこと。

小説

- 風 - 山本有三作、1930年-1931年連載 - 作中でエスペラントの講習会に参加した青年が革命運動に参加していく。
- 若い息子 - 野上弥生子作、1932年 - 作中で主人公の工藤圭次がエスペラントの会に出ていることが示される。
- 塔の中の女 - 間宮緑作、2011年 - 副題（サブタイトル）と章題がエスペラント。

戯曲

- イーハトーボの劇列車 - 井上ひさし作、1980年 - 作中で主人公の宮沢賢治が、列車内でエスペラントを講義している場面がある。
- エスペラント〜教師たちの修学旅行の夜〜 - 青木豪作、2006年、文学座アトリエ公演 - 修学旅行先の岩手県の旅館に宮沢賢治のエスペラントの詩が掲げてあり、これをめぐって登場人物が会話を交わす。

テレビドラマ

- O-PARTS〜オーパーツ〜 - フジテレビ系列、2012年 - 作中、2156年から2012年に来たテロリストへの

テロ指示および2156年の内閣総理大臣から2012年の日本政府に送られたメールにエスペラントが使用されている。

映画

- ジャン有馬の襲撃 - 大映、1959年公開の白黒映画。市川雷蔵主演の時代劇。イベリア半島に存在するという設定の架空の国「イベリア国」の言語としてエスペラントを採用。

アニメ映画

- ドラえもん のび太と奇跡の島 〜アニマル アドベンチャー〜 - 東宝その他、2012年公開。劇中で舞台となる島「ベレーガモンド」(Belegamondo)島の先住民、ロッコロ族の言語としてエスペラントを採用(この舞台となる島の名前もエスペラント。「非常に美しい世界」の意。また、ゲスト・ヒロインであるロッコロ族族長の孫娘、コロンのペットのドードーの名前「クラージョ」[Kurago]もエスペラント。「勇気」の意。更に、「オーロ」[Oro]というこの族長の名前もエスペラント。「黄金」の意)。

立体美術作品

- 朝の曲 - 韓国の立体美術作品(インスタレーション)作家、イ・ブルの塔状の作品(2007年)。外周部に、ネオンサインで形作られたエスペラントの単語を多数貼り付けてある。

関連書籍

- 田中克彦『エスペラント-異端の言語』(2007年、岩波新書、岩波書店、ISBN 978-4-00-431077-8)

関連項目

- エスペラントアルファベット
- エスペラント版ウィキペディア
- エスペラント文学
- エスペラント母語話者
- エスペラントの基礎
- エスペラント諸語
- プラ-エスペラント
- ブローニュ宣言
- ヘルツベルク・アム・ハルツ(2006年より「エスペラントの街」を宣言し、エスペラントによる町おこしをしていることで知られる)
- 緑星旗 - 緑の星
- ラ・エスペーロ
- 八ヶ岳エスペラント館
- アルカイカム・エスペラントム
- 世界エスペラント協会 (UEA)
- 国民性なき全世界協会 (全世界無民族性協会、SAT)
- 日本エスペラント協会 (JEI)
- 全世界エスペラント青年機構 (TEJO)
- 日本青年エスペラント連絡会 (JEJ)

出典

1. ^ M.ボウルトン著、水野義明訳「エスペラントの創始者ザメンホフ」(1993年、新泉社) p.128-130

2. ^ 藤巻謙一「まるごとエスペラント文法」（2001年、日本エスペラント学会）、p.51
3. ^ "Plena Ilustrita Vortaro" (1971年、Sennacieca Asocio Tutmonda)
4. ^ "La Nova Plena Ilustrita Vortaro" (2005年、Sennacieca Asocio Tutmonda)
5. ^ 辞典編集委員会編「エスペラント日本語辞典」（2006年、日本エスペラント学会）p443・h解説
6. ^ "La Nova Plena Ilustrita Vortaro" (2005年、Sennacieca Asocio Tutmonda)、前書き
7. ^ 辞典編集委員会編「エスペラント日本語辞典」（2006年、日本エスペラント学会）p578・該当の語に対する「より望ましい語」の注記による
8. ^ CED編、"Esperanto en Perspektivo" (1974年、世界エスペラント協会)、p664-669
9. ^ Mein Kampf, Erster Band, 11. Kapitel:Volk und Rasse (<http://www.magister.msk.ru/library/politica/hitla003.htm>)
10. ^ 財団法人日本エスペラント学会 2009年度事業報告書 (<http://www.jei.or.jp/hp/publikigo/akt09.pdf>)
11. ^ Hugo Röllinger "Monumente pri Esperanto - ilustrita dokumentaro pri 1044 Zamenhof/Esperanto Objektoj en 54 landoj",Universala Esperanto Asocio, Rotterdam 1997, ISBN 92 9017 051 4.
12. ^ 特定非営利活動法人アニミ (<http://www.animi.jp/>)
13. ^ 株式会社OVOが『就職ベストマッチング交流会2008』を開催 2月24日・東京渋谷/3月1日・大阪梅田 (<http://www.jsb.co.jp/release/newsview.php?newsid=40>)
14. ^ SWANY バッグ事業部 Q&A集 (<http://www.swany.co.jp/wb/faq/index.html#0014>)
15. ^ <http://www.puk.jp/theatre/theater.html> プーク人形劇場
16. ^ http://www.festivalo.co.jp/karaimo_world/tenmonkan_festivalo.html
17. ^ <http://www.felica.ac.jp/mean.html>
18. ^ 手作りパン工房ボングスタ (<http://www2.tokai.or.jp/esperanto/bongusta.html>)
19. ^ http://www.mediafactory.co.jp/anime/rahxephon/onair/ab_world.html ラーゼフォン 世界観
20. ^ 街区名称は「丸の内オアゾ (OAZO)」に決定 (<http://www.mec.co.jp/j/news/release/040427.htm>)
21. ^ <http://www.movado.com/AboutMovado.aspx>
22. ^ http://www.tokoyo.jp/wa_6.php
23. ^ ヤクルトのマメ知識 (<http://www.yakult.co.jp/kyoto/ylt.html>)
24. ^ Bicikla "Veturilo" en Varsovio (<http://pej.pl/2012/05/29/bicikla-veturilo-en-varsovio/>)

外部リンク

学習

- *lernu!* (<http://ja.lernu.net/>)
- Kurso de Esperanto (<http://www.cursodeesperanto.com.br/bazo/index.html?ja>) エスペラント自習ソフト
- 簡易日エス辞書 (<http://www.s-w.co.jp/~taon/edic/dic4j.html>)、簡易エス日辞書 (<http://www.s-w.co.jp/~taon/edic/dic3.html>)
- Hejmapxo de Vastalto (<http://homepage1.nifty.com/esperlando/jp/>) エスペラント電子辞書など
- Reta Vortaro (<http://purl.org/NET/voko/revo/>) エスエス辞典
- ネットワーカーに贈るエスペラント語入門講座 (<http://www2.tokai.or.jp/esperanto/kurso/index.htm>)
- 英語から入るエスペラント (<http://plaza.harmonix.ne.jp/~sakat/>)
- エスペラント普及会 (<http://www.epa.jp/>) (大本系の学習指導会)
- Diskutgrupo "Ni parolas Esperante" (http://it.groups.yahoo.com/group/ni_parolas_esperante)
- "鍋田辞書 エスペラント対応のパソコン用辞書ソフト" (<http://esperant.nabeta.tk/>)
- エスペラント日本語翻訳 エルミテーヨ (<http://tvt.ermitejo.com/>)

情報

- [esperanto.net](http://esperanto.net/info/index_ja.html) (http://esperanto.net/info/index_ja.html)
- Farbskatol' (<http://farbskatol.net/>) (いわばエスペラント版の"YouTube"、つまり動画投稿サイト)
- Lumis Eterne (<http://www.youtube.com/watch?v=uggnwtmxCI0>) (歌詞がエスペラントの歌のうち、

今の日本で一番有名と推定される曲、"Lumis Eterne" [ルーミス・エテルネ] のサウンドファイル {アニメ"ARIA The ORIGINATION"の挿入歌。"YouTube"より引用}

- 萌え全世界協会 (<http://www1.jcn.m-net.ne.jp/mat/>) (日本発の「萌え文化」とエスペラントを結び付け、世界中にエスペランティストを増やす事を目的とする団体の公式サイト)

組織

- 日本エスペラント協会 (<http://www.jei.or.jp/>)
- 東京エスペラントクラブ (<http://homepage3.nifty.com/esptek/>)
- 関西エスペラント連盟 (<http://kleg.jp/>)
- 世界エスペラント協会 (<http://www.uea.org/>) (エスペラント、英語、仏語、独語、西語、ポルトガル語、ロシア語)
- エスペラント学士院 (<http://www.akademio-de-esperanto.org/>) (エスペラント)

入力ツール

- Vastalto のエスペラントの部屋：エスペラント語キーボードレイアウト (<http://homepage1.nifty.com/esperlando/jp/>) (手軽にエスペラントを入力できる)
- エスペラント語キーボードレイアウト (<http://missagain.blog.shinobi.jp/Entry/104/>) (英字キーボード用)
- エスペラントIME (<http://missagain.blog.shinobi.jp/Entry/100/>)

「<http://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=エスペラント&oldid=42967706>」から取得
 カテゴリ：人工言語 | エスペラント | インド・ヨーロッパ語族 | 世界の一体化

-
- 最終更新 2012年6月17日 (日) 09:46 (日時は個人設定で未設定ならばUTC)。
 - テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。